

# まらり)

Vol.34 2019/2



富士川第一中学校でキャリア教育授業。  
フラワーアーティストの村瀬将之さんが  
熱く語り、中学生と一緒にパフォーマンス。



ポルタ・デ・サンカク  
「ふじの女性たちの歩みを紡ぐ」  
女性史を語り継ぐ大切さを再認識。



富士市男女共同参画地区推進員南部ブ  
ロック事業。明治大学マンドリン倶楽  
部さんが素敵な音色を届けました♪



防災活動に力を入れている女性ネット  
ワーク・富士によるパッキング。



HappyはぐHeartによる、子育てママを  
対象としたワークショップ  
「自分らしい子育て、見つけよう！」



富士市男女共同参画地区推進員北部  
ブロック事業。マジシャンオイルさん、  
結花乃さんと楽しいひととき♪



「世界の今を知ろう！」。静岡県JICAシニア海外  
ボランティア協会の大石銃太郎さんがグロー  
バルな視点から男女共同参画を語りました。

## たくさん の 想いを 未来 へつなぐ

### もくじ

- 女性や若者とともにおすすめのこれからのまちづくり ..... 2
- 巨大地震！必ず来る「そのとき」 知っていれば守れる命がある！ ..... 4
- 富士市男女共同参画都市宣言記念事業「輝く人生、子育てしながら働いて」... 5
- 富士市男女共同参画人権講演会「性の多様性と人権」 ..... 5
- 富士市男女共同参画センターってどんなところ？ ..... 6

### オイルさんのトーク 結花乃さんの



# 女性や若者とともに



ぼくらにできること  
わたしたちにできること

## “Next! Power up Fuji City”を合言葉に まちづくりや政策を考える

社会的課題が複雑化、多様化している中、地域の課題を解決するためには、子どもから大人まで、あらゆる立場の市民の多様な関わりが必要とされています。そのために、チャレンジセミナー「女性や若者とともにすすめるこれからのまちづくりシリーズ」として「Next! Power up Fuji City 10年後に向けて ぼくらにできること わたしたちにできること」を市民団体「Power up Fuji」の皆さんと協働で開催しました。

平成30年7月15日(日)  
市役所庁舎6階第1,2会議室

参加者  
37人

### 【事例発表】

- 内野 浩恵 さん (親子サークルローズマリー 代表)
- 小泉 卓登 さん (富士山わかもの会議 代表)

親子サークル「ローズマリー」の内野さんは、産後に陥った孤独育児の経験から、仲間作りのためにサークルを立ち上げた経緯を語り、小さなサークルが市内にいくつもあり、子育て中の親がすぐ身近に感じることができればと提案しました。

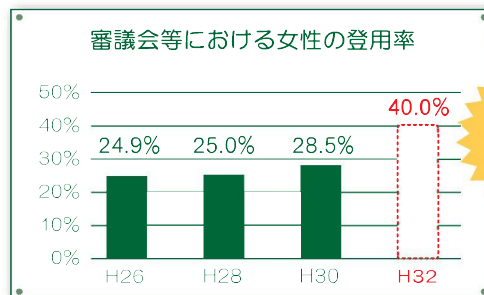
富士市のこれからの可能性について、若者が話し合う場を提供している「富士山わかもの会議」の小泉さんは、平成29年富士市成人式実行委員長を務めたことが活動のきっかけになったと話し、学生でも政策に興味があるのに周囲の目を

気にしてなかなか語れる機会がないとして、語れる場の大切さを訴えました。

事例発表後は、富士市のまちづくりや政策についてグループで話し合いました。高校生から大人まで、年代の異なる者同士で話し合うことで、新たな視点に気付くきっかけにもなり、活気のある有意義な時間でした。

## 政策・方針決定の場で意見を!

幅広い年代の市民が活発な議論をするチャレンジセミナーのように、富士市は、政策・方針決定の場における女性の登用を進めるための取組をしています。例えば、富士市には、まちづくり、教育、環境、都市計画などあらゆる分野において、政策・方針を審議する場として65審議会等が設置されており(平成30年4月時点)、その審議会等における女性の割合について、下記のように、目標を設定しています。



目標  
H32までに  
40%

# すすめるこれからのまちづくり

市民の市政参加をさらに進めるため、平成29年10月から審議会等の公募委員候補者登録制度を開始しました。無作為抽出で選ばれた市民のうち審議会等に関心がある場合、公募委員候補者として登録されます。この制度により、女性や若者など幅広い市民が委員として活躍できるようになりました。

私たちは生活している中で、様々な悩みや心配を抱え、また「もっとこうなったらいいのに」という想いもありますが、その一つ一つがまちづくりや政策へ繋がっていくということを、理解していくことが大切です。

審議会の公募委員さんに  
ホッペを聞きました！



の むら は な こ  
野村華子さん

- 富士市男女共同参画審議会
- 3期目(2年任期)
- 6歳児と4歳児の母

## 審議会等の公募委員へ申し込んだ理由を教えてください。

結婚を機に富士市へ来て、知り合いもいないまま暮らしていましたが、育児に困ったとき、ご近所の方や、民間や市の支援に助けられ、富士市へ恩返ししたいと感じるようになりました。

そのような中、学生時代から女性の社会進出に関心があったこと、そして実際に社会人として働き、育児も経験してきて、男女が性別によって分業してきたことによる弊害を感じていたこともあり、富士市男女共同参画審議会に応募し、公募委員となりました。

## 審議会という場で発言するのはどうでしたか。

審議会の委員は、大学教授などの有識者や企業・町内会などキャリアのある方々で構成されており、「一般市民の私に何が出来るのだろう」と最初は緊張しました。

しかし、「普通の暮らしをしていて感じることを伝えてもらえれば大丈夫」とアドバイスをもらったことで、自身の無知である部分もきっと何かの参考になるはず、と前向きに考え、審議会の回数を重ねていくごとに自信も出てくるようになりました。

## 審議会委員をして実際どうでしたか。

育児だけの暮らしでは出会うことのない考え方や意見にとっても良い刺激を受けています。また、審議会では、行政に直接意見や提案を伝えることができるため、発言する手応えも大きいです。

専門知識やキャリアのある委員たちの中で、公募委員は、まちづくりや政策に対して「実際のところ、どうなのか」という実感を伝えることができます。それは、政策・方針が、より現実 に即したものになっていくために大切なことだと思います。

## 審議会委員をするにあたり、ご家族や周囲の反応はどうでしたか。

友人には、審議会の委員をしていること、そして育児中でもできるということを発信しています。実際に、審議会に見学に来てくれた知人もいます。

また、夫には「新しい世界が開けて良かったね。家事・育児だけをしているより、ずっと向いているよ」と言われました。育児中である私にとって、委員を務める上で、審議会に参加する間、子どもをどうするかは欠かせない問題です。私が務める富士市男女共同参画審議会には託児を利用できるため安心していきます。また、審議会の事前準備として資料を読み込んだり、意見をまとめたりする作業をしていますが、小さな子どもがいると、家族や周囲のレポートが必要になってきますので、今後はそのようなところへの配慮や支援も必要だと思います。

## 最後に一言お願いします。

委員を務めることで、公募委員へ申し込む動機となった「男女が性別によって分業することによる弊害」を感じていたのは私だけではないということ、そして世の中が良い方向へいくよう尽力されている方々がいることに感動しました。

公募委員は、一般市民が富士市という街を考える機会にもなり、そのことによって富士市への愛着に繋がっていくのではないかと思います。

## ま と め

チャレンジセミナーでは、富士市の課題だと思うことや課題解決のためのユニークな策などが出されました。その中で、「そこまではできなそうだけど、皆で議論したり意識を共有することはできそう」という意見もありました。まずは、一歩踏み出して、そのような場へ出かけてみてはいかがでしょうか。また、審議会等は一般公開しているものも多数ありますので、ぜひ見学してみてください。

# 巨大地震！必ず来る「そのとき」 知っていれば守れる命がある！

3歳までの  
乳幼児がいる  
家庭向け



「絶対に子どもの命を守りたい」  
そんな想いから29組の家族が集まりました。

## わが子を守る 防災セミナー

**第1回**  
11/4(日) **講演「防災おやかフェ」**  
講師：かもん まゆ さん  
一般社団法人スマートサバイバープロジェクト



かもんさんは、東北や熊本地震の被災地のママへの物資支援活動を通じて知った、ママたちのリアルな声と子どもを守るための知恵を伝えてくれました。子どもを守りたいなら、まずは「敵(=地震)を知ること」と、地震の仕組みや富士市における被害想定について解説。次に「赤ちゃんがいる」「アレルギー」など、被災した際、家族の弱点になる部分を考え、その上でどんなグッズが必要かを想像して、準備を始めてほしいと話されました。

また、防災リュックは「持って逃げるのが大事」とし、①最低限の物に厳選、②女性が持って逃げられる重さ(10キロ)、③両手が空くリュックを推奨。備蓄は「今家にあるものしかあげられなくなる」と考え「今買えなくなると困るもの」を常に少し多めに用意をするよう呼びかけました。そして、絵本などを使って地震の仕組みを学んだり、「今ここで地震が来たらどうする？」など、地震をタブーにせず、親子で日頃からよく話をしてほしいと訴えました。

震災の映像に涙する場面もありましたが、かもんさんの「緊急地震速報は子どもを守るゴング！生き抜くために今できることを！」という言葉に、参加者は大きく頷いていました。

**第2回**  
12/8(土) **「わが家は大丈夫?!  
家族を守る防災豆知識」**  
アドバイザー：地域防災指導員

前回の講演を聞き、防災意識が高まったところで、市役所防災危機管理課職員の勝又上席主事から具体的な対策について話をしました。参加者が事前に作成した“家庭内DIY”をもとに自宅の危険度をチェックしながら、地震のとき凶器となって家族を襲うかもしれない“モンスター



家具”は、子どもの目線から考えることがポイントとし、固定方法を伝授しました。地域防災指導員を中心としたグループワークでは、避難所についての質問に、指導員が「避難所は自宅が倒壊してしまった人が行くところ。小さな子どもがいる場合、避難所生活は大変なため、できれば家で生活できるよう家の中の対策をしっかりとってほしい」とアドバイスしていました。

最後は、ベビーケア&親子ビクスインストラクターの森田由美子さんによる親子遊び♪「被災後は心身ともに疲弊するが、親子のふれあいを大切にして子どもを安心させて」と伝え、タオルを使った遊びに皆が笑顔になりました。



### 参加者にインタビュー



もちつき かいすけ  
**望月 圭介さん**  
さやか  
**沙也加さん**  
はる  
**晴くん(1歳7カ月)**  
あかり  
**明梨ちゃん(4ヶ月)**

家族を失ってからでは遅いと感じて夫婦でセミナーに参加し、漠然とした防災のイメージが具体的になりました。使用しないおんぶ紐は逃げる時に保管、捨ててしまいがちな試供品の粉ミルクは備蓄へ。子どもには「地震だ！」と叫んだら安全な場所へ移動できるよう遊びに取り入れています。

また、ふじのくに防災士から話を聞く機会があり、災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を教えてもらい夫婦で練習したところ、いざという時に短い伝言を残す難しさを感じました。

悲しい思いをするパパ、ママが少しでも減るように、そして可愛いわが子を守るよう、たくさんの人に、家族で防災に取り組んで欲しいです！

### まとめ

大切なことと理解していても、小さな子どもを抱えているとなかなか手が付かないのが「防災」。しかし、今回は参加者の多くが「子どもがいることが防災に向き合おうと思ったきっかけ」とし、夫婦で真剣に防災について考え、必ず来る「そのとき」に備えました。

## 基調講演

## パネル ディスカッション



### 富士市男女共同参画都市宣言記念事業

## 「輝く人生、子育てしながら働いて」

日時:平成30年9月9日(日) 13:30～ 会場:ロゼシアター小ホール  
協力:富士市産業支援センターf-Biz

参加者  
150人



こいで ねお しょう  
小出 宗昭さん コーディネーター  
富士市産業支援センターf-Biz センター長



おおさわ まゆこ  
大沢 真知子さん パネリスト  
日本女子大学現代女性キャリア研究所所長  
人間社会学部教授



あらい みさこ  
原田 亜弥子さん パネリスト  
静岡放送株式会社 アナウンス部



いし い ゆき  
石井 祐子さん パネリスト  
株式会社静岡新聞社 経済部記者

### 第1部 基調講演「幸せに生きるということ」

大沢教授による基調講演では、幸せに生きるということは、未来を見つめ常に自分を成長させながら、自分を変える勇気を持つこととした上で、そのためには、自分にとって大切なことを明確にし、限られた人生を楽しむことが大切とお話されました。

### 第2部 パネルディスカッション「女性の働き方、生き方」



アナウンサーの原田さんは、育休で職場を離れることで、自分がココにまた戻ってこれることができるのが不安だったが、復帰後は周囲の協力を得ながら思いっきり仕事をして幸せだとお話されました。また、新聞記者の石井さんは、夕方以降に仕事が忙しくなるため、保育園の送迎など心配も多かったが、今は“量より質”を目指しているとお話されました。お2人の話を受け、小出さんは、女性社員が育休や時短を利用したところ業務に効果が現れたという、f-Bizの取組を紹介し、女性の「働き方改革」の重要性に触れました。また、大沢教授は、子育てしながら働く場合、人と比べず自分らしさを大切にしてほしいと呼びかけました。

## 講演会

### 富士市男女共同参画人権講演会

## 「性の多様性と人権

～取り巻く社会環境と世田谷区の取組み～

参加者  
75人

日時:平成30年8月20日(月) 13:30～  
会場:富士市教育プラザ1階 会議室  
講師:上川 あやさん(世田谷区議会議員)

今年度で2回目となる人権講演会では、自身も性的マイノリティー(LGBT)であることを公表の上、世田谷区議会議員選挙に立候補し当選され、現在4期目を務める、上川あやさんに講演していただきました。上川さんが幼少期に感じた自身の性への違和感や、周囲に言えず苦悩した経験などを踏まえながら、社会に潜む性的マイノリティーへの偏見などを訴えました。

また、性にまつわる「常識の嘘」について、下記の3つを指摘されました。

- ① 身体の性は男と女に割り切ることはできない
- ② 必ずしも心と身体の性が一致するわけではない
- ③ 異性を愛することだけが当たり前ではない

L:レズビアン(女性同性愛者)

G:ゲイ(男性同性愛者)

B:バイセクシャル(両性愛者)

T:トランスジェンダー

(心と身体の性が一致していない人)

LGBTは  
これらの総称  
です。

このように、常識と知っていることには嘘や例外もあり、国際社会において、日本は性的マイノリティーへの理解に遅れをとっている現状を伝えました。

そして、世田谷区の取組として、2015年に開始された同性カップルを公認する制度のほか、同性カップルも公営住宅への申込が可能となった公営住宅条例の改正、性的マイノリティーへの差別を禁じる「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」の制定などについて紹介されました。



# 男 女 共 同 参 画 セ ン タ ー



富士市男女共同参画センターでは、性別に関わらず個性や能力を発揮できる社会の実現を目指し、講座の開催、図書の貸し出し、お悩み相談などを行っています。

どなたでもお気軽にお立ち寄りください★

## ◆富士発・女と男のフォーラム

男女共同参画センター利用団体で構成する「きらり交流会議」が、講座や講演会を開催しています。子育て支援、親子料理教室、介護、アート、演奏会、ウォーキング、ごみ問題など、テーマはさまざま。広報ふじにて随時日程をお知らせしています。興味のあるものにぜひ一度お気軽にご参加ください。

## ◆情報コーナー

育児、夫婦関係、健康、LGBTなど、幅広い分野の図書やビデオを貸し出しています。お子さまが喜ぶ絵本もたくさん並んでいます!どうぞ本を手にとってみてください♪



婦人公論  
きょうの健康  
オレンジページ

## ◆女性のための相談室

女性相談員があなたの悩みを聞き、解決に向けて共に考え、女性の人権に配慮し、必要に応じ専門機関をご紹介します。

相談無料・秘密厳守

相談専用 ☎0545-64-8997

- 相談日: 月～金曜(祝休日、年末年始除く)
  - 相談時間: 9:00～12:00、13:00～16:00
  - 相談方法: 電話・面接(要予約)
- ※緊急時は随時受付

不安や悩み  
抱えていませんか

## ◆ほっとスペース

「ほっとスペース」では手遊び、読み聞かせ、紙芝居、折り紙などが楽しめます♪子どもだけでなく、ママやパパも一緒に楽しめる盛りだくさんの内容で、子育てのヒントも得られます!開催日は、市のホームページで随時ご案内していきます。



## 【富士市男女共同参画センター】

〒416-8558

富士市本場432-1 フィランセ西館 3階

TEL/FAX 0545-64-9017

E-MAIL [si-danjo@div.city.fuji.shizuoka.jp](mailto:si-danjo@div.city.fuji.shizuoka.jp)

開館時間/8:30～21:00

休館日/毎月第3日曜、祝休日、年末年始



記事についてのお問い合わせ、ご意見・ご感想はこちらへ。

# きらり

富士市民部

多文化・男女共同参画課 [富士市役所3階]

TEL 0545-55-2724

FAX 0545-55-2864

〒417-8601 富士市永田町1-100

「きらり」は年1回発行します。世帯回覧の他、多文化・男女共同参画課、男女共同参画センター、各地区まちづくりセンター、図書館などで配布しています。会社やご友人にもぜひ回覧してください。